

令和5年度子どもの力と意欲を伸ばすキャリア教育実践交流協議会

【目的】 各小・中学校及び義務教育学校において特別活動または進路指導を推進する立場にある教員等を対象に、これからの時代を生きる子どもたちに必要な資質・能力に関わる講演・説明等を行うことにより、キャリア教育の充実及び大分県版キャリア・ノートの活用促進を図る。

【期 日】 令和5年 9月12日(火)

【会 場】 ビーコンプラザ 国際会議室

【参加者】 特別活動または進路指導を推進する立場にある教員等

【内 容】

説明 「子どもの力と意欲を伸ばすキャリア教育について」

協議 「将来の夢や目標を持ち、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育成するために、各学校でキャリア教育をどのように充実させればよいか」

講演 「キャリア教育の意義」

講師 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官
国立教育政策研究所教育課程研究センター 教育課程調査官
国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター 客員研究員
東北福祉大学教育学部教育学科 教授 **長田 徹 氏**



【講演の概要】

■ 学習指導要領が求めるキャリア教育の在り方

- ・国際調査（TIMSS等）が示す日本の現状
- ・社会の変化と日本の現状

■ 「キャリア・パスポート」で学びをつなげよう

- ・学習者の主体性や可能性を引き出す評価について
- ・学びのつながりを実感させる全国の学校の事例について

「未来をえがくキャリア・ノート！」の効果的な活用について（提出資料より）

【記入させる時間の確保や時期の設定について】

■学校や学年で時間をそろえて、学期の初めと終わりに記入させている。節目を意識させながら、見直しを持たせ、振り返りをさせることができている。

■「〇年生の私」のページは、4月当初の学級活動の時間に書かせ、自己を見つめさせるとともに、自己紹介をする時に活用している。「〇学期を振り返って」のページは、学期の終わりに、自分自身の成長について振り返って記入するように声をかけている。

■キャリア教育担当が「キャリアノート記入」の期間を決めて、声かけをしている。その後は、記入漏れがないように声を掛け合っている。

【学校や学年などで指導の共通理解を図るための工夫について】

■学年初めの職員会議で、「キャリアノートの意義や効果」について、全教職員で共通理解を図っている。

■事前に学年部でキャリアノートの内容について、打ち合わせをして、子どもが書きやすいような助言や手立てを共通理解している。

■子どもがキャリアノートに記載した内容を学年部で共有したり、教室背面のポートフォリオに掲示したりすることで、情報の共通理解をしている。

■振り返りの資料(行事や総合の振り返りシート)を蓄積しておくことを学校全体で共通理解している。

■大人からのメッセージや内容の確認を学級担任だけではなく、学年部教職員で取り組んでいる。

■学校行事等とキャリアノートの内容が一致するように、教育課程に「キャリアノート」を扱う時間を記載している。

■町内で「キャリアノートについて」というキャリアノート活用についての資料を作成し、それを各校に応じた形に修正して、活用している。

【その他】

■キャリアノートの「私たちはなぜ学ぶのだろう」について、全校で紙面意見交流会を開催した。通信にして保護者に発信した。

【子ども自身の変容や成長を自己評価させるための工夫について】

■学校行事でめあてを掲げ、それに向かって取り組む中での成長を見える化(掲示)し、価値付けている。また、キャリアノートを使って友人同士で交流させることで、自分では気付かない成長の自覚を促している。

■学期末の振り返りを書かせる前に、学期初めの目標や昨年度と同じ時期のページ(大人からのメッセージも含む)を見せて、自分自身を見つめ直し、振り返りをさせている。

■学活でその子が頑張ったことやできるようになったことを相互理解し、自己肯定感が向上するように努めている。

■体カテストや持久走の取組など、子どもの頑張りが現れているものをキャリアノートに貼っている。

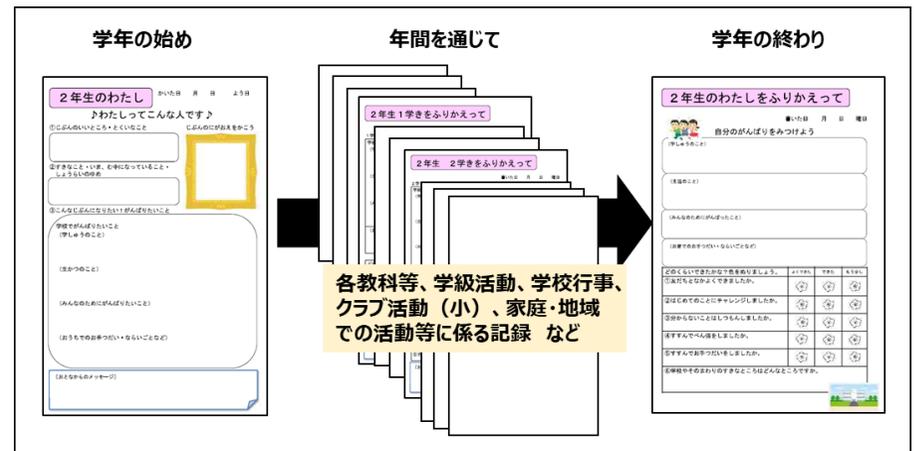
■学級通信などで子どもの振り返りを還元している。

【保管の方法や保護者との連携の工夫について】

■小学校1年生の入学式で、保護者に進学先の学校に持ち上がることを伝えている。

■「大人からのメッセージ」を学級懇談に来た保護者にその場で書かか、家庭で書かかを選んでもらっている。

■通信や学級懇談会でキャリアノートの意義などについて発信している。



実践交流協議・講演を終えた参加者のアンケートより

実践交流協議について

■キャリア教育を充実させるための体験活動や職業体験の大切さ、キャリアノートの活用(小学校から高校までを見通して)、子どもの自己肯定感を高めるための働きかけなどを学べた。

■キャリア教育と聞いて、小学校にはまだ早いのではないかと感じていたが、本講義を聞いて人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力について学べてよかった。

■特別活動の大切さを改めて感じる事ができた研修だった。夢を語れる学校にしていきたい。キャリアノートの活用についても、前向きな自己評価に使っていけるように、学校や保護者に今日学んだことを伝えていきたい。

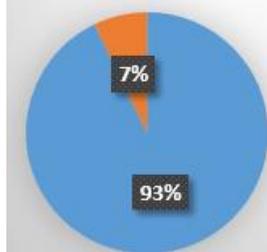
■日本は、学力の高学歴のニートの数が多いことや自己肯定感が低いことがわかった。これからの教育現場で大切な事は、1人1人の児童が、自分の良さをしり、将来へ向けて希望を持ち、学習を進めていける環境をいかに作っていくことが大切だと感じた。自分の良さや可能性、学びの意義など、学ぶことと自己のつながりを見通しながら自分らしい生き方を実現していけるよう、児童と一緒に日々を過ごせていけたらと思う。

■キャリアノートの活用方法として、自分を見つめ直して、将来の進路を考えていく部分だけでなく、自分が今まで頑張ってきたことをまとめる、自信をつけるためにも活用できることを学ぶことができた。

■今年度は進路指導主事という立場を任されており、生徒・保護者ともに「どんな高校に進学するか」ということにとっても関心が高いと感じている。進学することだけでなく、将来起こり得るリスクと向き合う方法、高校で学ぶ意義など、もっと生徒や保護者と向き合ったり、発信したりしていくことが必要だと感じた。残り少ない中学3年生と過ごす日々で、自分に何が出来るかを考えていきたい。



評価平均3.9



- 4 とても参考になった
- 3 どちらかと言えば参考になった
- 2 どちらかと言えば参考にならなかった
- 1 参考にならなかった

講演について

■他都市の方のキャリアノート活用やキャリア教育の実践のお話が聞けて大変貴重な機会となった。また、講演では、全国の小中高様々な実践の様子を知る機会となった。様々なデータと照らし合わせながら、大変わかりやすい内容だった。自己の振り返りや自己評価の大切さなどを改めて感じた。教職員で共通理解をして、キャリア教育にとりこんでいきたい。

■キャリア教育の意義について、具体的な事例等をもとに学ぶことができた。講演では、キャリアノートを中心としたキャリア教育の実践について多くの学びを得た。次回の研究協議会で還流報告を行い、各学校での取り組みの一層の充実につなげていきたい。

■キャリア教育で、改めて学んだこと、生徒一人ひとりが様々な場面で変容していることに気付かされた。明日からの学校現場でまた生徒1人ひとりと向き合って頑張っていきたい。

■キャリアノートを子どもが大人になってから、振り返ることがあるということや心の支えになる場合もあること、中学校や高校での児童理解に活用されることなどを学べた。

■講演が非常にわかりやすく、実践に生かせる具体的な内容であったという間に時間が経った。明日からまた子どものために頑張ろうという元気ももらった。キャリアパスポートを書いていく意義についてなるほどと納得させられた。途中途中に出てきた学校の実践も、参考にしたいものがあった。子どもたちが自身の成長を自覚し、これまでの歩みを振り返り、自信をもって未来を見据えて歩いていけるように、取り組んでいきたい。

■講演の内容で、指導要領の前文について、実践によってどのような意味なのか具体的に示してくれたことで、キャリアパスポートの取り組みの例を知ることができた。また、他校の実践を通して、自分の実践に取り入れてみたいと思うこともあり、有意義な時間となった。

■生徒理解が深まれば、かける言葉が変わってくる。まさにその通りで、私たちの日々の実践を思い返させてくれた一言であった。また、キャリアパスポートを通して子どもが変容や成長が実感出来ている様子を聞かせていただき、これからもキャリアノートをしっかりと扱っていこうと意欲が高まった。